

本年度の重点に対する評価

本年度の重点	1	○確かな学力の育成
目標（評価規準）	校内研修、研究授業を通して「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図り、生徒一人ひとりの資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。	
重点に係る現状 設定理由	学習指導要領では、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」）をバランスよく育むことが求められている。そこで、校内研修・授業研究をとおして「主体的・対話的で深い学び」の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業改善を進め、これら三つの力をバランスよく育成するように努める。	

評価資料	評価
教職員アンケート結果 （具体的方策ごと）	<p>教職員の回答は概ね肯定的であった。ただし、④「家庭学習」は他に比すと低い結果であった。</p> <p>【肯定的回答】</p> <p>①「授業や指導法の工夫」……………90.0%                  ②「授業に意欲をもって取り組む」…95.0%                  ③「適時適切な学習評価」……………80.0%                  ④「家庭学習の取組み」……………70.0%</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも①「授業改善の取組み」や③「学習状況の共有」については高い評価ではあったものの、②「学習意欲」や④「家庭学習」については生徒・保護者とも「充分満足」な状況とはいえない。</p> <p>【肯定的回答】（「判断できない」除く）</p> <p>①「授業や指導法の工夫」……………生徒91.3%、保護者84.1%                  ②「授業に意欲をもって取り組む」……生徒81.4%、保護者68.8%                  ③「適時適切な学習評価」……………生徒93.2%、保護者79.4%                  ④「家庭学習の取組み」……生徒（下段参照）、保護者74.2%                  1年生：「2時間以上」5.5%、「1～2時間」24.7%、「30分～1時間」27.4%、「30分以下」41.1%                  2年生：「2時間以上」12.6%、「1～2時間」34.5%、「30分～1時間」12.6%、「30分以下」31.0%                  3年生：「2時間以上」38.6%、「1～2時間」22.8%、「30分～1時間」14.0%、「30分以下」17.5%</p>
自己評価結果 （見解と改善方策）	<p>かねてよりの課題である「学習意欲」と「家庭学習の取組み」が、改めて浮き彫りとなった。</p> <p>①教職員、生徒、保護者とも、授業改善に取り組んでいることへの評価は高い。                  ②学習意欲について、生徒、教職員、保護者の間でギャップがある。                  ③学習状況の適時適切な情報提供・共有について、概ね評価されている。                  ④学年差はあるものの「1時間以下」が3～4割であり、家庭学習への支援が必要である。</p> <p>※これまでの授業改善の取組みを継続するとともに、「学習意欲」および「家庭学習」について学校として生徒・保護者に具体的な働きかけを行う。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力向上には家庭学習の習慣化が不可欠であり、そのためにも自学ノートの取組みを継続発展させてほしい（現在、名向小は取組みを行っており、三崎小も次年度から取組むとのことである）。</li> <li>・また、家庭学習の取組み方についての指導も充実させてほしい。</li> <li>・書くことで覚えた経験がある、書かせる指導の充実は重要である。</li> </ul>
最終改善方策	<p>⇒家庭学習の取組みの充実に向け、保護者への情報提供を充実させ、理解と協力をさらに深めるとともに、一人ひとりの学習状況に応じた課題やアドバイスを提供するなど、より効果的な支援策を検討・実施したい。</p> <p>⇒校内研究をとおした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の取組みを継続するとともに、実践の共有や協働的な研究をより進め、さらなる充実を図る。</p> <p>⇒生徒の学習意欲向上に向け、生徒の主体性を引き出すことを主眼に、より一層生徒の主体的な学習活動を促し、学習の面白さや達成感を味わえるような指導を充実させる。</p>

本年度の重点	2	○豊かな社会性の涵養
目標（評価規準）	基本的な生活習慣の定着を図るとともに、「互いに認め合い、支え合い、高め合う集団づくり」を通して生徒一人ひとりの豊かな社会性の涵養に努める。	
重点に係る現状 設定理由	変化の激しい予測困難な社会を生きる生徒には、自らの人生を形作り、他者の人生に貢献していくための当事者意識や目的意識、必要な資質・能力を身につけさせる必要がある。そこで、自ら考えて責任ある行動をとれる主体性をもった生徒を育成するため、学校という集団生活の場をとおして豊かな社会性の涵養に努めたい。今年度は、家庭と連携しながら基本的な生活習慣の定着、規範意識や社会的マナーの伸張を重点とする。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>教職員の回答は、すべての設問において概ね肯定的であった。</p> <p>【肯定的回答】</p> <p>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」……80.0%。                  ②「社会のルールや学校のきまり」……90.0%。                  ③「多様な人と関わり協働した学校生活」……90.0%。                  ④「責任ある行動をとること」……95.0%。</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも概ね肯定的回答が得られた。</p> <p>【肯定的回答】（「判断できない」除く）</p> <p>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」……生徒76.1%、保護者70.6%。                  ②「社会のルールや学校のきまり」……生徒96.7%、保護者97.0%。                  ③「多様な人と関わり協働した学校生活」……生徒95.1%、保護者88.9%。                  ④「責任ある行動をとること」……生徒89.9%、保護者85.3%。</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>教職員・生徒・保護者いずれもが、社会性の涵養について高く評価する一方、基本的な生活習慣の定着について課題があることが示された。</p> <p>①「基本的な生活習慣・規則正しい生活」、④「責任ある行動をとること」において、保護者の肯定率が教職員や生徒よりも低い点が見受けられ、家庭と連携した指導体制の強化が課題である。</p> <p>②「社会のルールや学校のきまり」、③「多様な人と関わり協働した学校生活」について、アンケート結果では概ね肯定的ではあるものの、一部生徒の校内外での行動に課題が見られることは課題である。</p> <p>※ 全項目について、家庭・小学校と連携を図りながら、よりいっそう社会性の涵養に努めていきたい。</p>
学校関係者評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本来は家庭の課題であることが学校に大量に持ち込まれているように感じる。未成熟な保護者に対し、根気強く啓発するしかないのか……。</li> <li>・三浦市として携帯、スマホ、ゲームなどの規制ができるとういのだが……。</li> </ul>
最終改善方策	<p>⇒家庭・小学校との連携を強化し、基本的な生活習慣の定着に向けた取組みを推進する。</p> <p>⇒保護者への情報提供を積極的に行い、学校の取組みへの理解を深める。</p> <p>⇒集団生活には不可欠なことであるので、今後も指導を継続し、生徒・保護者への更なる浸透を図っていきたい。</p>

本年度の重点	3	○安全・安心な学習環境と開かれた学校づくり
目標（評価規準）	生徒が安全・安心に学校生活を送れる環境づくりに努めるとともに、学校だより等による情報発信や保護者・地域との緊密な連携を通じた「開かれた学校づくり」を進める。	
重点に係る現状 設定理由	コロナ禍の経験から学校は生徒の安全・安心につながる場でなければならないことが再確認された。これまで同様、命や人権の重みを最優先し、生徒にとって安全・安心な場所であり、安定した生活を送れる学校をめざしたい。また、「地域の学校」として、学校の教育活動の積極的な公開、情報発信に努めるとともに、学校と保護者・地域との相互理解を深め、連携・協力をしながら学校づくりを進める。	

評価資料	評 価
教職員アンケート結果 (具体的方策ごと)	<p>教職員の回答は、すべての設問において概ね肯定的であった。</p> <p>【肯定的回答】</p> <p>①「子どもたちの安全・安心を守ること」…… 95.0%</p> <p>②「命や人権の大切さ」…… 90.0%</p> <p>③「開かれた学校」…… 95.0%</p> <p>④「教職員の対応」…… 100.0%</p>
各アンケート等の結果	<p>生徒・保護者とも概ね肯定的回答が得られた。</p> <p>【肯定的回答】（「判断できない」除く）</p> <p>①「子どもたちの安全・安心を守ること」……生徒83.7%、保護者90.4%</p> <p>②「命や人権の大切さ」……生徒97.1%、保護者97.0%</p> <p>③「教職員からの承認」……生徒89.1%</p> <p>「開かれた学校」……保護者92.1%</p> <p>④「教職員の対応」……生徒87.4%、保護者84.5%</p>
自己評価結果 (見解と改善方策)	<p>教職員・生徒・保護者とも、安全・安心な学習環境と開かれた学校づくりについて概ね高く評価している。</p> <p>①②③生徒・保護者ともに、学校が安全・安心の環境づくりや命・人権教育、情報発信に積極的に取り組んでいることを高く評価していることが伺える。特に、命や人権教育に対する評価は非常に高い結果であった。</p> <p>③保護者は学校が積極的に情報発信を行っていることに満足しており、生徒は教職員から認められていると感じていると考えられる。</p> <p>※「安全・安心な学習環境」は教育活動の大前提であり、否定的な回答がゼロとなることを目指して取組みを継続し、さらなる信頼を得られるようにしたい。</p>
学校関係者評価結果	<p>・子どもたちのために、PTAとして学校をバックアップできるところはしていきたい。</p> <p>・さまざまな面で教職員の指導がたいへんになっていることがよくわかった。一学校の課題ではなく時代の変化に伴うものであるが、今後も家庭や関係機関と連携しながら頑張っていただきたい。</p>
最終改善方策	<p>⇒今後も生徒一人ひとりに寄り添い安心して学校生活を送れる環境を整備するとともに、情報発信の充実を図り学校に対する理解を深める。</p> <p>⇒「教職員の対応」について、より一層迅速かつ丁寧な対応を心がけ、生徒や保護者が安心して相談できる環境づくりを進める。</p>